

「次亜塩素酸水 現時点では有効性は確認されず」との NITE：製品評価技術基盤機構の報告に対する弊社の見解について



「次亜塩素酸水」現時点では有効性は確認されず NITEが公表

2020年5月29日 18時49分 [新型コロナウイルス](#)

NITE＝製品評価技術基盤機構は新型コロナウイルスの消毒目的で利用が広がっている「次亜塩素酸水」について、現時点では有効性は確認されていないとする中間結果を公表しました。NITEでは噴霧での使用は安全性について科学的な根拠が示されていないなどとして控えるよう呼びかけています。

NITEなどはアルコール消毒液に代わる新型コロナウイルスの消毒方法の検証を進めていて、29日「次亜塩素酸水」についての中間結果を公表しました。

率直に申し上げれば、今回の次亜塩素酸水を全否定するような偏向的な報告と報道に、弊社も大変驚いております。特に健康被害の報告部分（現在は削除）については容認し難いものだと考えています。今回の報告について弊社の見解は以下の通りです。

■新型コロナウイルスに対しての次亜塩素酸水の有効性について

今回 NITE の報告では結論が出ず、継続して検証することなので、弊社としても次回の報告を待ちたいと考えております。しかしながら国立感染症研究所での検証報告や北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターや帯広畜産大学における検証報告において新型コロナウイルスへの有効性が認められたとの報告があることも追記いたします。

■次亜塩素酸水の有効性について

厚生労働省は、下記の通り、濃度 40ppm の次亜塩素酸水がウイルスや各種細菌に対して効果がある事をはっきりと明示しています。

出典：厚生労働省 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会乳肉水産食品部会

「次亜塩素酸水と次亜塩素酸ナトリウムの同類性に関する資料」（平成 21 年 8 月 19 日配布資料）

表2. 次亜塩素酸水と次亜塩素酸ナトリウムの抗菌・抗ウイルス活性

病原菌・ウイルス	次亜塩素酸水 (40ppm: HClO)	次亜塩素酸ナトリウム (1,000ppm: NaClO)
黄色ブドウ球菌 <i>Staphylococcus aureus</i>	◎(<10 秒)	◎(<10 秒)
MRSA (メチシリン耐性黄色ブドウ球菌; 多剤耐性)	◎	◎
腸管出血性大腸菌 <i>Escherichia coli</i> O-157 H7	◎	◎
緑膿菌 <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	◎	◎
サルモネラ菌 <i>Salmonella</i> Enteritidis	◎	◎
腸炎ビブリオ菌 <i>Vibrio parahaemolyticus</i>	◎	◎
その他のグラム陰性病原菌	◎	◎
セレウス菌 <i>Bacillus cereus</i>	△(3~5 分)	△(3~5 分)
結核菌 <i>Mycobacterium tuberculosis</i>	△(~2.5 分)	▲(~30 分)
ノロウイルス(ネコカリシウイルス: Feline Calicivirus)	◎	○
ヘルペスウイルス (Herpes virus)	◎	◎
インフルエンザウイルス (Influenza virus)	◎	◎

表2の様に、薬機法（旧・薬事法）で消毒薬として認定されている次亜塩素酸ナトリウムに対して、未認定の次亜塩素酸水が同等以上の抗菌・抗ウイルス活性を有している事が明記されています。更に付け加えるならば、次亜塩素酸ナトリウムの濃度 1000ppm に対し、次亜塩素酸水はわずか 40ppm であります。

■次亜塩素酸水の安全性について

同じく、表1において、手荒れは少ないと手指に使用した場合の効果がはっきりと明記されています。

表1. 次亜塩素酸水と次亜塩素酸ナトリウムの特徴の比較

	酸性電解水(次亜塩素酸水)	次亜塩素酸ナトリウム
1)供給・濃度:	ユーザーが製造・使用濃度	製品の市販・高濃度
2)使用: 有効塩素濃度	希釈せず、新鮮なうちに流水洗浄 20~60ppm(強酸性) 10~30ppm(微酸性)	希釈して浸置き使用 100~10,000ppm
3)化学的性状 主生成成分	酸性 次亜塩素酸(HClO) > 塩素(Cl ₂) >> ClO ⁻	アルカリ性 次亜塩素酸イオン(ClO ⁻) > HClO
UVスペクトル	酸性で230nm付近に吸収極大 アルカリ性で294nmに吸収極大	同左 同左
4)安全性		
手荒れ	少ない	多い
環境負荷	少ない	多い
トリハロメタン	生成なし	生成あり

■次亜塩素酸水の空間噴霧について

①NITE の報告では世界保健機関（WHO）、米国疾病予防管理センター（CDC）、中国国家衛生健康委員会、厚生労働省の見解を列記してありますが、特に厚生労働省の注意に関する記述は、全く別物である次亜塩素酸ナトリウムの噴霧についての注意であり、次亜塩素酸水が対象になるものではありません。事実を誤認させる明らかに誤った記述の仕方だと考えております。

②噴霧による安全性についての評価方法が確立していないことは事実であります。しかしながら、次亜塩素酸（HC10）より生体への被害が大きいと思われる空气中塩素濃度（Cl₂）を用いた安全性評価の方が現実的であり、弊社が推奨する濃度 40ppm 程度の噴霧であれば、日本産業衛生学会が定める塩素許容濃度および労働安全衛生法の作業環境評価基準濃度である 0.5ppm を大きく下回ると想定されるので問題無いものと考えています。

③噴霧によるウイルス除去についての評価方法が確立していないことは事実であります。空气中に浮遊するウイルスを除去できるとは断言できかねますが、床や壁などの室内空間に存在するあらゆる物質に付着した細菌やウイルスの除去には間違いなく効果を発揮いたします。弊社が安全性も加味したうえで空間噴霧を推奨する理由はそこにあります。

■次亜塩素酸水および次亜塩素酸水生成パウダー等の販売実態について

NITE が指摘するように、販売実態に数々の問題点があることは業界として関係する立場にあるすべての者は真摯に受け止め、改めるところは速やかに修正すべきと考えております。弊社におきましても製品への記載内容には細心の注意を払っておりますが、再度見直しを行い、ホームページ上も含めて正しい情報発信のもとで今後も販売を続けて参ります。

【 まとめ 】

次亜塩素酸水が一般的に使用されるようになってから既に 20 年以上が経過しています。食品工場等を中心に幅広く普及しており、安全性、効果ともに全く問題はありません。しかしながら、この新型コロナウイルス感染症拡大下における消毒剤や除菌剤の不足に伴い、一気に民間レベルでの使用が始まった為に、その原理や使い方を良く理解しないままに販売優先で行われたことが、一部の誤解や誤表示等を誘発する要因となったと考えております。

弊社はあらゆる種類のウイルス感染症の予防に対して次亜塩素酸水は大いに有効と考えております。今後も関係諸官庁からの指導に則り、表示の適正化、必要データの開示等を実現し、消費者の皆様役に立てて頂ける製品を提供できるよう努力していく所存であります。

令和 2 年 6 月 2 日

株式会社エスプロアクア

代表取締役 鈴木隆嗣